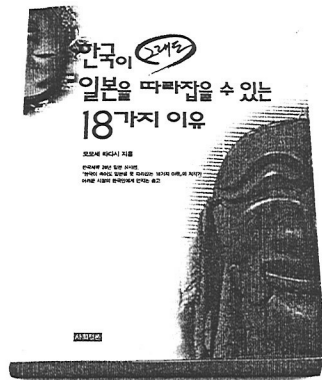


やっぱり死んでも 韓国が日本に 追いつけない 18の理由

百瀬 格 韓国トーマン会長
Momose Tadashi
金重明 [訳]



やっぱり韓国が死んでも日本に
追いつけない18の理由

百瀬 格 韓国トーマン会長
Momose Tadashi
金重明 [訳]

9784163553405

1920036015245

ISBN4-16-355340-1

C0036 ¥1524E

定価(本体1524円+税)

浦項製鉄所の建設現場で苦楽をともにした百瀬会長はわたしにとって格別な人物だ。昨年彼が本を出版したとき、各界各層の韓国人が彼の愛情に満ちたあたたかい批評をありがたく受け入れた。「第二の漢江」を期待する彼の今度の著書は、やはり友情にあふれた友人だけが贈ることのできるあたたかな激励として耳に響く。大韓民国は「なせばなる」という信念で「漢江の奇跡」を成し遂げた。いまもう一段の跳躍を準備しなければならないわれわれにとって、30年近い韓国滞在を基礎とした彼の忠告は特別のものだ。状況が困難であればあるほど、重要なものは自信と意地だ。百瀬会長はわれわれ韓国人に、われわれ自身が持っている武器は何かを改めて自覚させてくれる。

(朴泰俊・自由民主連合総裁・浦項製鉄元会長)

——韓国版推薦文より

文藝春秋

文藝春秋

愛韓派は」という言葉に衝撃を受けた。彼は三年ほどしか韓国に滞在していないのだが、彼の「愛韓派」という言葉は実に新鮮であった。普通に付き合える二国間になるためにも、本音で物を言い、愛するが故の苦言を呈するということは恋人同士の間でもあるわけだから、私の本が韓国でも日本でもベストセラーになり、韓国人に殺されることもなく(?)元気でいられたことは、両国の関係がより成熟した方向に向かっていることの証左でもあろうか。

近い将来、遠い将来でもいい。日本と韓国が、イギリスとフランスのように海底トンネルで結ばれ、本当に近くて親しい間柄になることを願っている。

私の本は、前の本もそうだったが、「韓国よ、日本のあとを追い、日本に学ぶべし」と主張しているのではない。ただ、韓国が立派に発展してほしいと願っているだけだ。そして韓国が発展するためには、どうしなければならぬのかということを、三十年近い韓国滞在生活から学んだ経験を活かして率直に語ったのである。

もちろん私は「愛韓派」といえども日本人だ。当然、意識的にせよ無意識的にせよ、日本の尺度を振り回してしまっただろうことは十分に想像できるが、私が日本の尺度を持ち出すのは、それが「先進国日本のやり方だから」と考えてのことではない。常識的にも普遍的にも、より正しいと思ったからそうしただけだ。常に日本を意識しているというわけでもない。私の話が日本の尺度に基づいていると感じられたとしても、日本人だから、という先入観でもって目をそらすのではなく、韓国に住む韓国人とは別種の人間の目から見るとこのようにも見えるのだと考えてほしい。

同じことは日本の読者にもお願いしたい。韓国に長年滞在し、いささか日本人離れた日本人による韓国論ではあるが、単なる優劣による比較ではなく、お互いの文化の違いがもたらす、さまざまな行動様式や思考様式や発想の違いが互いに存在することを、まず認識してもらえれば有り難い。

『韓国が死んでも日本に追いつけない18の理由』が出版された当時、それから数ヶ月後の韓国にIMFショックなるものがおこると予想していた人はほとんどいなかった。私もまた、韓国の経済がいくつかの深刻な問題を抱えているということはわかっていたが、これほど急激に事態が悪化するとは予想できなかった。出版当時はまだ、一部からは憂慮の声も聞こえたが、ほとんどの韓国人は未来を薔薇色と考えていた。

そういう時に、韓国がこれ以上発展していくためには、改善しなければならないいくつかの深刻な問題を多数抱えている、ということを描きたくて本を出したのである。「さあ、ここまで来たのだから、韓国よ、自らが立っている場所をもう一度振り返ってみようではないか」という話をしたかったのである。

IMFショックから、そろそろ一年半になろうとしている。その間、試行錯誤を経ながらも、韓国が、充分とはいえないまでも、最小限必要な「自己反省」をしていると私は考えている。韓国は、今こそ、力を合わせて第二の「漢江の奇跡」を実現しなければならぬ。私は韓国人のための応援歌を歌いたい。「韓国が日本に追いつけない」理由として指摘した問題点は、それが改善され止揚されたときには日本に追いつくことができるということを意味している。韓国は躍動